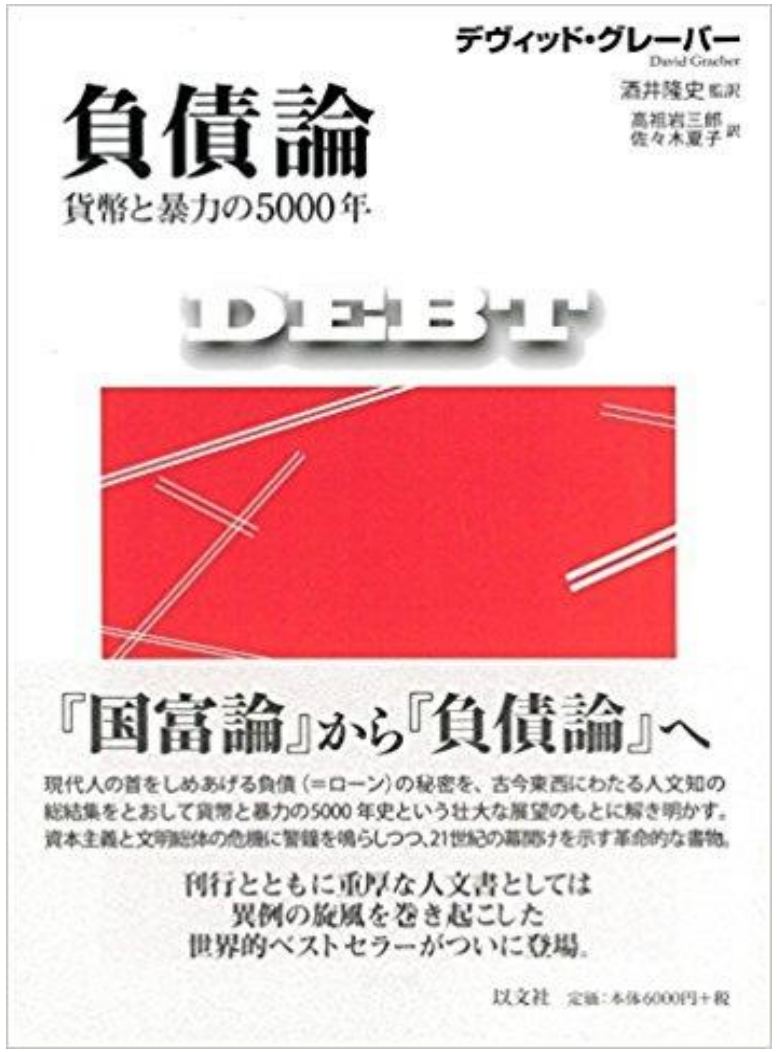


現代の負債とは何か

2018年11月23日

縮小社会研究会報告

境　毅（生活クラブ京都エル・コープ職員）

基礎知識

- 資本＝自己増殖する価値。
- 価値＝商品の価格で表示されている経済的価値。
- 資本主義の原理＝資本家が労働者を雇用する生産の仕組み。
- 資本主義における搾取＝労働力の売買で得た賃金以上の価値を資本家に与えている。不払労働＝剰余価値。資本とは過去の不払労働の体化物。不払労働で労働者を雇用している。
- 資本主義における搾取の特徴＝身分制によるものではなくて、働く人びとが生産手段を奪われて資本に経済的に隷属していること。
- 搾取からの解放よりも経済的隷属からの解放が今日的な運動目標となる。自営業など働く人々の差異を残した共同が実現可能。

商品から貨幣の生成、貨幣の資本への転化

- 商品からの貨幣の生成＝貨幣は、商品所有者が労働生産物を市場に値付けして出荷するときに、無意識のうちでの本能的共同行為に参加し、金を貨幣にしている。だから貨幣は毎日の無数の取引によってつど生成されている。＝この話題は今回は取り上げない。
- 金はもはや貨幣ではない（金廃貨論）や、労働は価値の実体ではない（労働価値否定論）が幅を利かしているが、しかし、これらの理解では、なぜバブルが崩壊するのかが説明できない。
- 貨幣の資本への転化＝生産手段を奪われている労働者が自分の労働力を資本家に販売し、資本家のもとで働くことで貨幣が資本に転化する。労働者の労働の資本への転化。

資本の競争と平均利潤の成立

- 産業資本＝資本の運動の原理をもち、他の資本形態を解明できる。
- 産業資本の競争による平均利潤の成立＝不変資本が小さくて可変資本（労働力）が多い企業は大きな剰余価値をあげられるが、その剰余価値は競争によって、不変資本が大きな企業に吸収される。
- 具体例＝平均利潤を20%とすれば、稼働総資本にそれぞれ20%の利潤が生まれることになる。総資本額の小さなケア産業の労働者が作りだしは不払い労働は、大企業の利潤へと吸収される。これが平均利潤の法則で、労働集約的な第一次産業や、ケア産業の困難はここからくる。資本は参入しにくく、自営業や協同組合が支えている。

資本の種類とその範式

- 産業資本
- G→W+A→P（生産過程）→W’→G’（G＋m）
- 商業資本
- G→W→G’（G＋m）　生産過程が欠落
-　貨幣取扱業　G→W＝G→G’（G＋m）　扱う商品が貨幣
- 利子生み資本
- G･･････G’（G＋i）　貨幣の自己増殖の神秘的形態
-　その原理的解明

  G→G→W+A→P（生産過程）→W’→G’（G＋m）→G“＋i

利子生み資本の分類

利子生み資本の一般的範式は、G･･･G’であり、お金がお金を産む資本であって、どのように産むかは問われない資本の形式である。これに対して、その特殊な形態である近代的利子生み資本は、貨幣資本家による資本家的企業家への貸付である。それは次のような運動を展開する。

G→G→W+A→P（生産過程）→W’→G’（G＋m）→G“＋i

この場合、資本家は借りた貨幣で事業を行い、利潤をあげて、そこから利子を支払う。資本主義社会では、この利子生み資本の特殊な形態が一般化しているので、それを近代的利子生み資本と名付ける。そして借りた貨幣が資本としては機能していない場合の利子生み資本を、その派生的形態として位置づける。

近代的利子生み資本の派生的形態

- 近代的利子生み資本の派生的形態にはいくつかの種類がある。
- それらは架空資本として命名されているが、さまざまな金融資産は、それがもたらす定期的収入があれば、それを利子に見立てて資本還元した利子生み資本として現れる。
- 株式、社債、国債、土地所有、などが架空資本として規定される。
- このほか銀行による信用創造も架空資本の創造である。
- 先資本主義社会での利子生み資本の主流であった高利資本は、貸し付けた貨幣が資本としては機能しない貸付で、現在では、サラ金、住宅ローン、奨学金、カードローンなどの消費者金融として存在している。

二種類の負債：利子生み資本の二類型

　利子生み資本の分類から、二種類の負債があることが判明する。近代的利子生み資本と高利資本である。その種差は、借りた貨幣を資本として機能させる場合か、消費の用途にする場合かの違いである。後者はかつては国家の戦費や王侯貴族の浪費、飢饉のときの農民の生計費などであったが、現在では住宅ローンなど消費者ローンとなっている。また国債や土地もこちらに分類できる。

負債経済とは（定義）

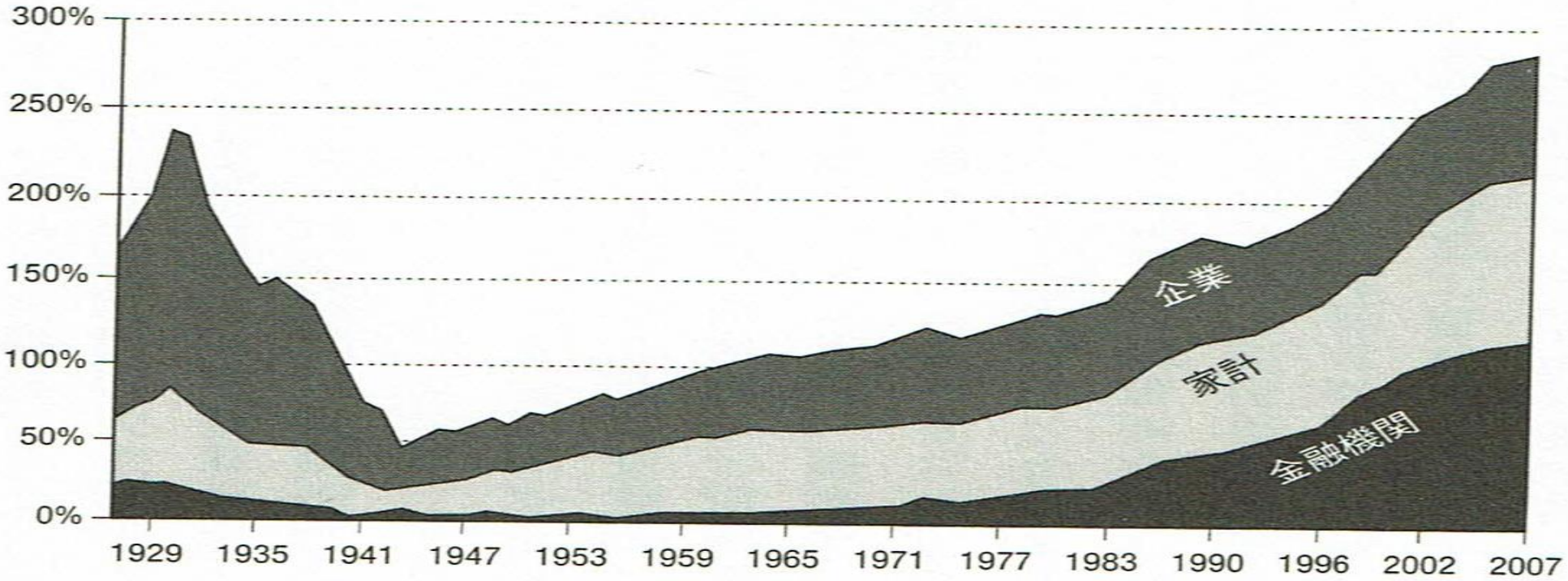
　負債経済とは、グローバル資本市場において、お金にお金を生ませる手段である金融商品の由来が、債務を資本として機能させる近代的利子生み資本とは異なるものによって形成されている経済領域を指す。近代的利子生み資本とは異なるものとは、国債や土地所有があり、また、投資銀行によって消費者金融などの債務を証券化した金融商品がつくりだされている。これらは貸し付けた貨幣が資本として機能してはいない、高利資本を根に持つ負債である。これらの負債（債権・債務関係）及びそれに根をもつ金融商品が売買される経済領域（グローバル資本市場も含む）を負債経済と呼ぶ。

負債資本と利子生み資本

　従来の高利資本は今日の負債経済の中核的資本となっており、新たに負債資本と名付け、その属性について研究することが必要である。利子生み資本と負債資本、共に外観は貸付けた貨幣に利子がつくというものだが、借りた貨幣がどのように機能しているか、その違いを明らかにするために、借りた貨幣が資本としては機能していない貸付資本を負債資本と規定しよう。それが単なる高利資本の役割を超えて、現代の資本主義の破局をもたらすような資本として変異をおこしているのだ。この変異は消費者金融の債務を証券化する技術によってなされている。

1．負債＝債務の現状：金融当局者の反省（1）危険な債務は金融機関同士の取引。ターナーは金融機関同士の間の取引が増大していることを問題にしている。家計は住宅ローンや耐久消費財のローン。企業への貸付は横ばい状態。

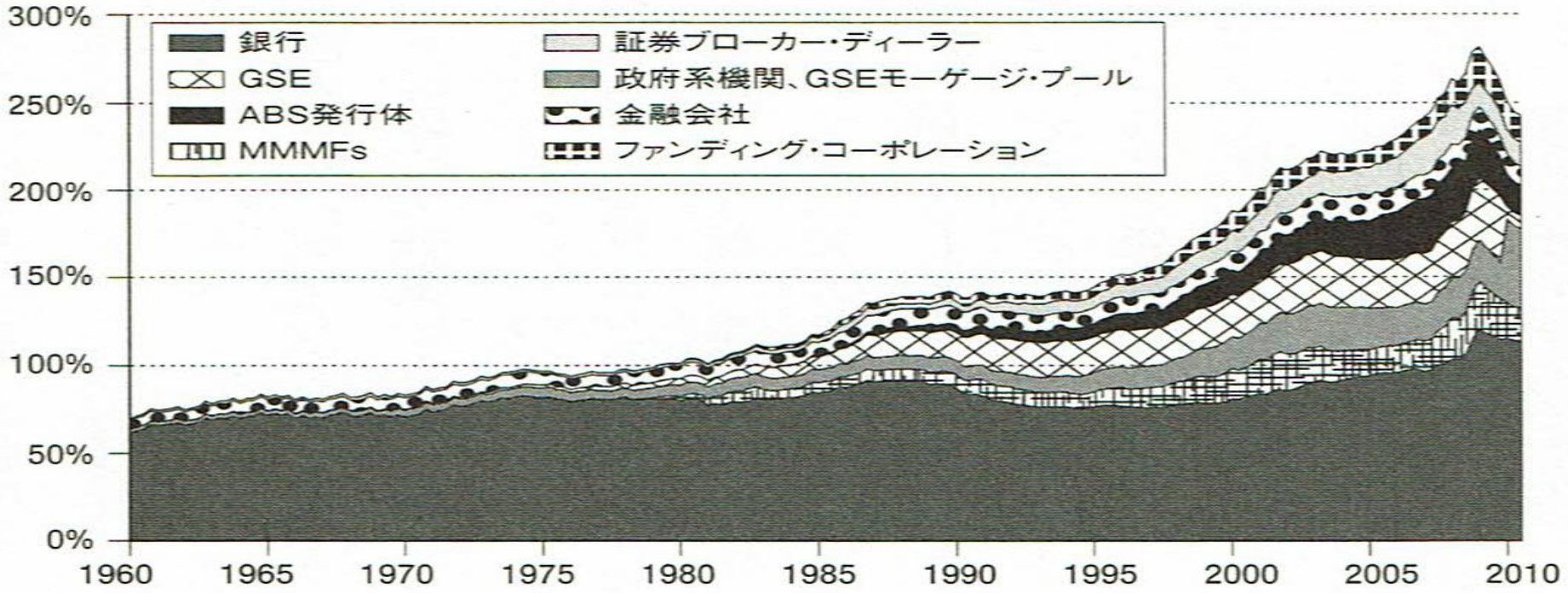
図表 1.3　米国の借り手別・債務残高の GDP 比



出所：オリヴァー・ワイマン

金融当局者の反省（2） １９９０年代に入って急速に拡大した負債経済の担い手は、新しく生まれた金融会社（シャドウバンク：預金を受け入れられないが、当局による規制や保護もない）。この実態は報告されないので当局にも謎だった。

図表 6.1　米国金融部門の資産の GDP 比



注：ABS は資産担保証券；GSE は政府支援企業；MMMFs はマネー・マーケット・ミューチュアル・ファンド

負債資本の果たす役割：金融危機の引き金

　負債経済が、住宅ローンや耐久消費財のローンの領域に収まっていれば大きな問題を起こすことはなかった。ところがこれらの債務証書が投資銀行によって買い込まれ、それを束ねた証券として公社債市場で売りに出されることで、単なる高利資本が負債資本に変異し、グローバル資本市場（ニューヨークの公社債市場）で新規の金融商品として売りに出された。ローンを貸し付ける住宅金融のブローカーは投資銀行が債務証書を買い付けてくれるので、貸付金が直ちに回収され、それでまた新しく貸付ができる。こうしてどんどん貸付が膨らみ、またこれを根に持つ負債資本もどんどん増えていった。しかし、不動産価格の下落がはじまると、これらの証券は不良債権となった。

負債資本の果たす役割：事後処理の変化

土地バブルが続く限り、グローバル資本市場で売り出される負債資本としての金融商品のリスクは無視できるが、いったん住宅価格が下がり始めると、途端に負債資本のリスクは増大する。こうして負債資本は不良債権化し、それを買い込んだ銀行が自己資本不足で経営不振に陥いる。これを救済しようとするときに、中央銀行は株式市場での株価暴落時の対応とは全く異なる対応を迫られた。前例なき量的緩和と低金利政策である。量的緩和は、金融機関のバランスシートに残った不良債権（負債資本）を中央銀行が買いとるための措置だった。こうして世界は失われた30年を体験した日本の不動産バブル崩壊後の事態を後追いし始めた。本来は資本主義における資本の社会的配分を規制する役割を持つ国際資本市場が、そこでの負債資本のヘゲモニーによって、歪められ、機能不全に陥っている。高利資本はそれが膨張すれば社会を疲弊させる、というその本質が、いま生々しく現れてきたのだ。

負債経済の歴史的役割

高利資本は社会を疲弊させる。封建社会から資本主義社会への移行期には、高利資本が封建社会の破壊の役割を担った。現在の資本主義社会での負債経済と負債資本のヘゲモニーもまた、市民社会を疲弊させている。資本主義に代わるシステムが要求されている。

市民社会における非資本主義的領域は日本の不動産バブル崩壊後も成長していった。障害者の事業所に関していえば、当事者たちの差別をなくす運動によってさまざまな権利が獲得されてきた。しかし市民社会の疲弊によって、地位向上から現状維持と負債経済への対抗の陣地への転換が問われている。都市政策が要でありGSEFの役割は大きい。また、雇われないで働く脱資本主義の動きも、農業や自然エネルギーを結びついて広範に広がってきている。

新自由主義、負債、社会的連帯経済三者の関連のシェーマ化

- 新自由主義の政策としての規制緩和及び金融市場の自由化。—→これが金融市場で、資本主義ではない異物である「危険な負債」を増大させた。—→この負債の増大によって金融当局者たちも資本主義が発育不全になっていることに気づき、「危険な負債」の除去をしようとしている。—→しかし、確かな方法はなく資本主義は発育不全の状態が続く。—→こうした中であくまでも成長政策にこだわる新自由主義は、さらなる自治体からの事業の引き出しや、大都市の再開発に期待している。—→しかし、このような状況は、地域保全の事業やインフラ的な事業への投資となり、非営利事業を増大させ、過渡期の経済の生成となっている。